



外務省 中東アフリカ局 ◆岡山大学経済学部卒 経済学研究科修士課程修了

有森 雄一

ARIMORI Yuichi

一度も海外に出たことのないまま外務省職員に。
専門とする「アラビア語」を駆使し、
「エキサイティング」(有森氏)な中東地域に
果敢に飛び込む。

- ▶ありもり ゆういち (49歳)
- 1964(昭和39)年 岡山県岡山市出身
- 1987(昭和62)年 岡山大学経済学部経済学科卒
- 1991(平成3)年 岡山大学大学院経済学研究科修了 修士号(経済学)取得
- 1991(平成3)年 外務省入省(外務省専門職員、専門語学はアラビア語)
- 1992(平成4)年 ヨルダンの首都アンマンにてアラビア語研修
- 1995(平成7)年 在チュニジア日本大使館
- 1997(平成9)年 在カタール日本大使館
- 2000(平成12)年 外務省経済協力局有償資金協力課
- 2003(平成15)年 外務省欧州局ロシア課
- 2006(平成18)年 政策研究大学院大学修了 修士号(開発経済学)取得
- 2007(平成19)年 外務省中東アフリカ局中東第二課

専門はアラビア語

私の専門は「アラビア語」です。外務省で仕事をする上では、英語に加えて専門言語の習得が必要になります。

現在は外務省専門職員として、中東地域のイラン、イラク、アフガニスタン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)など10カ国を担当する部署に所属し、各国との二国間関係に携わっています。典型的な業務に要人の往来があり、先方の要人の受け入れや日本の総理大臣、外務大臣の中東訪問を計画、実施しています。2月にはサウジアラビアとUAEの皇太子がそれぞれ来日されました。その際は所属課で宮内庁や首相官邸と調整し、天皇陛下や総理との会談などのアレンジを行いました。

湾岸戦争の影響

就職を考えたとき、関わりたいキーワードが二つありました。「政治」と「外国」です。両立できるものとして、研究者という道も一瞬浮かびましたが、実務も担うことができる外務省を選びました。外務省の仕事には情勢分析のような研究的な要素と政策を実施する実務者としての要素の両面があります。

専門とするアラビア語に興味を持つきっかけは、「湾岸戦争」です。採用試験を受けていた時期

日本を売り込むセールスマンに



外務省

■外務省

所在地：東京都千代田区霞が関
事業内容：日本、世界の平和と繁栄のため、各国との友好関係増進、情報収集や交渉、海外の日本人保護、国際貢献や日本の魅力発信など
職員数：約5,400人

国内の外務省本省と約190の在外館を含め、外交領事事務を行う。

身分証明書の提示・手荷物検査にご協力願います

特別警戒実施中

中東はエキサイティング



在カタール大使館勤務時代の有森氏(左)▲

入省1年目は、本省で仕事をしつつ研修所で文法を中心にアラビア語研修を受けました。2年目からは3年間、ヨルダンの首都アンマンでアラビア語研修を行いました。この間は言語の習得だけに集中。1年間はヨルダン人の家庭にホームステイさせてもらい、ヨルダン大学のアラビア語講座と家庭教師から学びました。苦労しながらなんとか通訳ができるレベルにまでなりましたが、正直ほとんど「何も話せない」「何も聞き取れない」状態で行ったので、1年目のストレスは相当大きなものでした。

求められる資質は営業力

外務省職員に求められる資質は「営業力」ではないでしょうか。日本を売り込むセールスマンである必要があります。そのためには言葉が通じるのももちろん、日本のセールスポイントもしっかりと掴んでおくこと。その上でこまめな営業活動、つまり、頻繁に足を運び、人脈を形成し、広げていく姿勢が大切です。

研修後に赴任したチュニジアとカタールの大使館での仕事は、現地の情報を集めて分析する政務が中心でした。日本の中でも特に中部地方の発電所は、カタールから輸入する液化天然ガスへの燃料依存度が高く、カタールやその近隣のペルシヤ湾沿岸諸国の政情不安は日本の電力事情に影響を与えかねません。中東では予期しない

学生のみならずにはぜひ、一度は外国を見てほしいと思っています。言葉はできなくても良いのです。外国を訪れたこと、その土地の人と触れあったことがきっかけとなり、その国の言葉を勉強したくなるかもしれません。行けばきっと何か新たに感じるものがあるはずです。